

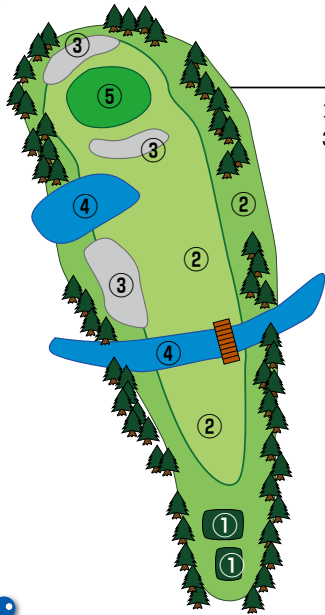
2019新ルール

「最大スコア」が変わる

レクリエーションゴルフ

2019年規則 5つのプレーエリア

コースは5つのコースエリアに分けられ
3つのエリアで名称が変わる。



- ①ティーインググラウンド
⇒**ティーイングエリア**
- ②スルーザグリーン
⇒**ジェネラルエリア**
- ③バンカー
⇒**変わらず**
- ④ウォーターハザード
⇒**ペナルティーエリア**
- ⑤パッティンググリーン
⇒**変わらず**

ホールアウト原則撤廃、HDCP取得でも適用

R & AとUSGAは3月12日、2019年から施行される新しいゴルフ規則を発表した。JGAではその後、和訳やビデオクリップ付き解説を交えホームページにアップしており、ご覧になった方も多いだろう。

今回は、新ルールの中でゴルフ場運営面に影響すると思われる主要点をまとめ、理解を深めることにした。

1 主な4つの変更点

まず、発表された意義深い変更点は次の4つ。

①「ドロップの手続き」 異常なコース状態やペナルティーエリアなどから救済を受けるとき、ゴルフファーは膝の高さからドロップする。

②「救済を受けるときの計測」 1クラブフェアアの救済エリアは1クラブレングスや2クラブレングスを計るために、プレーヤーのバッグの中で最も長いクラブ（パターを除く）を使って計測。

③「2回以上打ったことへの罰の削除」 1ストローク中の間に偶然に球を2度以上打つことへの罰打はなくなる。

④「紛失球やアウトオブバウンズの球・ストロークと距離の代替案」

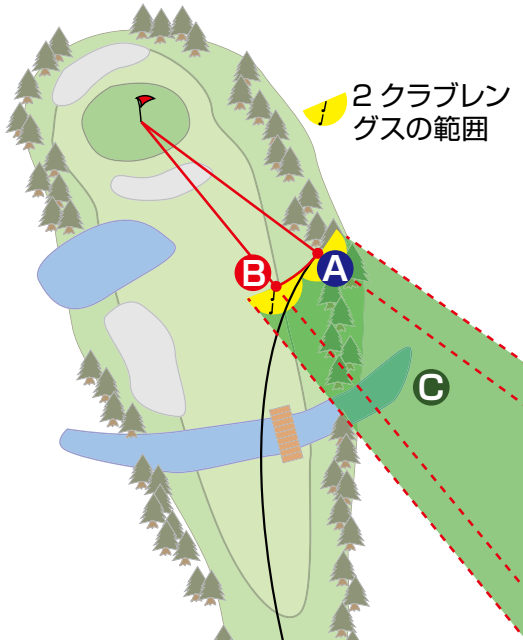
2019年からは新しいローカルルールを採用できるようになり、ゴルフファーが2打の罰に基づいて球を紛失したり、アウトオブバウンズとなった場所の近くに球をドロップすることを認めることを委員会に許可している（プレーのペースなど倶楽部レベルで生じる懸念に対処。プロやエリートレベルの競技は対象外）。

①から③は説明通りだが、④の新しいローカルルールは21頁のイラスト図で見てみたい。

アウトオブバウンズ（OB）となった場合、その場所（A）からホールと等距離のフェアウェイの縁（B）を推定し、その縁からフェアウェイ側に2クラブレングス（先の②により、バッグの中で最も長いクラブ 多くはドライバーを使用）を計測又は推定してそのBダッシュとも言える地点とA地点を結ぶホール近づくかないエリア（C）が救済エリアとなり、2打を付加してストロークすることに。通常はホール近づくかないフェアウェイの縁から2クラブレングス以内のフェアウェイに（先の

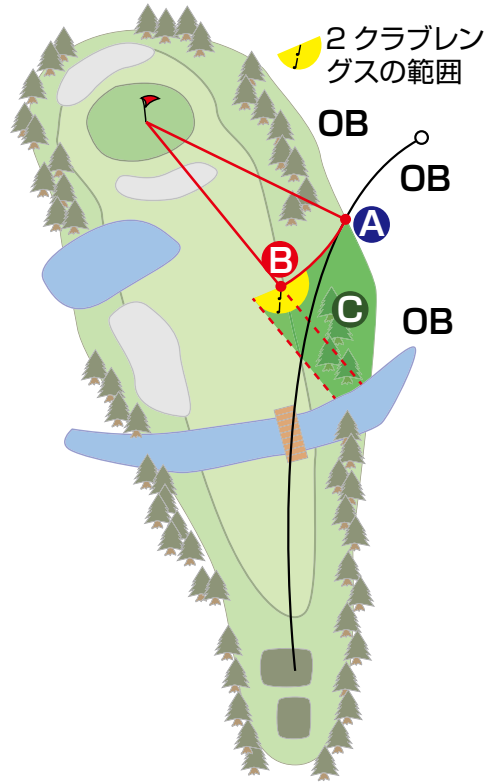
2 用語の変更

①により膝の高さから)ドロップすることになる。日本のゴルフ場では前進4打のローカルルールも散見されるが、これは公式のローカルルールには採用されなかった。競技の公式ルールではOBや紛失球は元の位置に戻って打ち直すことに変更はないが、一般のプレーヤー向けにプレーのペースなどに配慮して新ローカルルールを採用できることにしたものだ。



紛失球の処置

- A 球が紛失した可能性のある場所
- B そこから最も近いフェアウェイ
- C 救済エリア



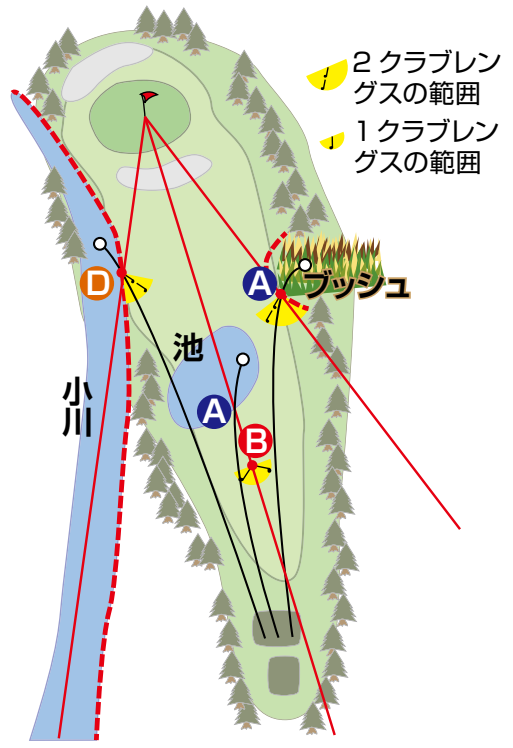
OBの処置

- A 球がOBとなった場所
- B そこから最も近いフェアウェイ
- C 救済エリア

ルール上の用語も変更になる。新ルールでのプレーエリアは①ティーイングエリア(現・ティー

③ インテグレーション(現・スルーズグリーン)、④ ペナルティーエリア(現・ウォーターハザード)、⑤

ア(現・ウォーターハザード)、⑤パッティンググリーンに分けられ、①②④が新しくなる。
 ②のジエネラルエリア(現・スルーズグリーン)とはペナルティーエリアやバンカー、OB区域を除くティーイングエリアからパッティンググリーンまでのプレーエリアを指しているのは現行通り。
 ④のペナルティーエリア(現・ウォーターハザード)は現行の池やクリークなどの水域に限らず、委員会が1打の罰で救済を認めたい区域に設定できるもの。例えとしてブッシュや崖、球を見つけたことが困難な雑木林などをペナルティーエリアとして設定することができる。救済措置は原則として現在のラテラル・ウォーターハザードと同様(ただし対岸の処置を使うことはできない)としている。
 ペナルティーエリアの救済方法は現行のラテラル・ウォーターハザードと同様なのだが、球をドロップする救済エリアが若干異なるので注意が必要。
 1つはペナルティーエリアの限界を最後に横切った地点Aとホールを結んだ後方線上に球をドロップするのだが、現在は同エリアの



ペナルティーエリアの処置

- A** 球がペナルティーエリアの境界を通過した場所
- B** 後方線上の1点を定めたらその後方左右に1クラブレンジ以内が救済エリア

ナルティーエリアでルースインペディメントを取り除いたり、クラブが地面に触れたりしても罰はなくなる。

変更点の解説では「ハザード」という言葉は、新しい規則ではもはや使用されません」と記述しており、ペナルティーエリアさえもジェネラルエリアと同じに扱うことは、規則をより簡単にし、混乱を軽減、不必要な罰を無くすとしている。

3 プレーのスピードと「最大スコア」方式

新ルールは、より多くのプレーヤーが楽しめるように規則の簡素化を目指したもので、もう1つの大きなテーマであるプレーのスピード化について見てみよう。

JGAが翻訳した新ルールの概要図(サマリーチャート)ではラウンド中にプレーするときのプレー

のペースについて、①各ストロークを40秒以内(通常はさらに少ない時間)で行うことを推奨、②安全で責任ある方法で行うことができるのであれば「レディーゴルフ」(準備ができたものから打つこと)が推奨されたとあり、またプレーのペースを援助する他の方法として「球の搜索時間の短縮、より多くの区域をペナルティーエリアとしてマークすることを認める、レッドペナルティーエリアの使用の拡大、ドロップの手続きの簡略化、旗竿をホールに立てたままパットすることを認める」とある。さらに新しいストロークプレーの他の形式として「最大スコアの許可。各ホールのプレーヤーのスコアは委員会が設定した最大スコアに制限する」となっている。

新しい用語、「最大スコア」とはいかなるものか。どのように運用するのか。

規則変更点の解説によると新しいストロークプレーの形式として、各ホールのプレーヤーのスコアは委員会が設定した「最大スコア」(例えば6、8、10など、またはパーに関連してダブルボギーやト

後方であればいくら離れても距離に制限がなかった。新ルールでは後方線上に1点を定めたら、その後方、左右の1クラブレンジ以内にドロップする。

もう1つはDのように、ペナルティーエリアの限界を最後に横切った地点から2クラブレンジ以内で、しかもホールに近づかない所でペナルティーエリアの外側が救済エリアとなり球をドロップする。

現行のラテラル・ウォーターハザードは元の位置からのストロークと、対岸からの処置を含め4つから選択できたが、新ルールでは

対岸からの処置のローカルルールを委員会が定められない限り、元の位置からのストロークを含め3つの選択肢となる。

ペナルティーエリアは現在のウォーターハザード同様に色で識別され、レッドペナルティーエリア(今のラテラル・ウォーターハザード)とイエローペナルティーエリア(今のウォーターハザード)の2種類となり、杭や線でそのエリアを表示(マーク)する。多くはレッドペナルティーエリアを想定、イエローも委員会が定めることができる。

もっとも、後で触れるようにペ

リブルボギーなど、あるいはハンディキャップに関連してネットでのダブルボギーなどに制限される。ホールを終了しない(簡単にいえば「ピックアップ」プレーヤーは失格にはならず、その「最大スコア」がそのホールのスコアになる)と説明している。

現在のホールアウト原則を撤廃するもので画期的だが、現在でもイギリスやオーストラリアではポイントで競うステイブルフォード方式(ダブルボギー以上0ポイント、アルバトロスで5ポイント)が人気で、解説では「最大スコア」は点数ではなくストロークと異なるが類似のストロークプレーであると紹介している。

なぜ類似かという点、ホールアウトせずにスコアが成立するもので、初心者や中級者にも池やバンカーでの「大たたき」や「OB連続」してホールアウトできない「無間地獄」から開放される。

そこで、この「最大スコア」でプレーしたスコアは公式、例えばハンディキャップ取得用のラウンドとして認められるのか、疑問が沸く。

早速JGAを通じてR&A、U

SGAに確認したところ、適用されることがわかった。

JGAの説明では、2019年以降に「最大スコア」を採用した競技が開催され、委員会が設定した「最大スコア」がこれらの上限を下回る場合は(つまり、ハンディキャップ査定用のホールスコア上限未満で球をピックアップした場合の)、現在のJGAハンディキャップ規定「4-1-1. ホールアウトしていないホール、コンシードされたストローク」の定めに従い「最も可能性の高いスコア」を適用してそのホールのスコアを記入し(ストロークコントロール上限を超える場合は必ず下方修正し)、ハンディキャップ査定のために提出します」とし、2020年のワールドハンディキャップシステム導入後も「最も可能性の高いスコア」を引き続き採用する予定です」との回答を得られた。

「2020年から導入されるワールドハンディキャップシステムでは、一律ネットダブルボギーがホールスコアの上限となり、実際のラウンドでこれらの上限を超えるホールスコアがある場合、決められた上限まで下方修正したスコア

を査定用に提出しなければなりません」とも説明しており、ホールアウトしないスコアも査定用のスコアとして成立する。

「最も可能性の高いスコア」(Most Likely Score)とは、実際に費やしたストロークに、50パーセント以上の確率でそこからホールアウトするまでに費やすであろうプレーヤー自身が判断したストローク数を足したものと規定。最も可能性の高いスコアは、そのプレーヤーのストロークコントロールのスコア上限を超えることができないとの補足もある。

ストロークコントロール (ESC)

コースハンディキャップ	1ホールのスコア上限
9以下	ダブルボギー
10~19	7
20~29	8
30~39	9
40以上	10

説明が長くなつたが、プロやトップマチュアの競技を除く、いわゆる一般プレーヤーのレクリエーションゴルフでは「最大スコア」採用でのプレーも推奨しているもので、そのプレー結果はハンディキャップ査定にも採用されるので、初心者のうちからハンディキャップも取得してゴルフを楽しんでもらいたいという趣旨だ。

新ルールで委員会が「最大スコア」を設定しておけば、多くはネットダブルボギーか、ダブルパーが上限となり、大たたきするホールはなくなる。例えばパー72でダブルパー上限では144打以上にはならない。2020年から導入されるワールドハンディキャップシステムの上限は男女ともに54・0(現在の上限は男36・4、女40・4)に拡大するため、より多くのゴルファーが競いやすくなる。

そしてスコアの上限(それ以上のストロークプレーはできない)ルールにより、プレーが早くなれば、後方の組のプレーヤーのイライラは少なくなり、プレー時間そのものも短縮、ゴルフ場も多くのプレーヤーを受け入れやすくなる。欧米と違ってスコアをコレクシ

2019年規則の主な規則の解説

- 1 委員会は行動規範を作ることができる。委員会はエチケットやゴルフゲームの精神に反する行為をしたプレーヤーに失格以外の罰、例えば1打や2打の罰を課す行動規範を作ることができる。
- 3 距離計測機器の使用が認められる。ただし2点間の距離の計測で高低差、風向きなど、他のプレーに影響する要素を計測することは不可。
- 4 球の搜索時間が5分から3分に短縮。紛失球となる可能性を高め暫定球をプレーするプレーヤーが増える可能性があり、全体的にはプレーのペースに役立つ。
- 5 プレーヤーがスタンスをとった後にキャディーを後方に立たせることを禁止。一般の罰（ストロークプレーでは2打）を受ける。
- 7 2度打ちをしたときの1罰打がなくなり、そのストロークを1打と数えるだけとなる。
- 8 ストロークした球が偶然にプレーヤー自身に当たってしまった、または自分のキャディーや用具に当たってしまったも罰はなしに。球はあるがままにプレーする。
- 9 救済を受けるときにマーカーに告げる必要はない。なお、暫定球をプレーする場合はこれまで通り、「暫定球をプレーします」と告げなければならない。
- 10 救済を受けるときは、いつでも球を取り替えることができる。新しい規則では、罰あり、罰なしに関係なく救済規則に基づいて拾い上げた球は別の球に取り替えることができる。
- 11 バンカーのルースインペディメントを取り除くことができる。
- 12 バンカーで2罰打を加えたら、バンカー外にドロップできる。バンカーに球があるときに、アンプレヤブルの追加の選択肢として、2打の罰を加えれば、球とホールを結ぶ線上でそのバンカーの後方の外側にドロップすることができる。
- 15 キャディーはパッティンググリーン上の球をマークして拾い上げることができる。
- 16 旗竿を立てたままパットすることができる。
- 17 パッティンググリーン上でパットをするときにそのプレーの線上のグリーン面に触れただけでは罰はない。例えば、キャディーがねらい目を指で触ることも違反ではない。ただし、改善をしたという事実があれば罰（ストロークプレーでは2罰打）を受ける。
- 18 パッティンググリーン上の損傷箇所を修復できる。パッティンググリーン上の損傷箇所（人、動物、乗り物などによって作られたもの）を修復することができる。例えば、プレーの線上にあるスパイクマークを修理することができます。ただし、自然に窪んでいるところを平にすることはできない。
- 19 救済エリアを計測するクラブ1クラブレングスや2クラブレングスの救済エリアを計測する場合に使用するクラブは、プレーヤーがそのラウンドのために持ち運んでいる最も長いクラブ（バターを除く）。
- 20 新しい規則では次の場合に球を動かしたことの罰が免除される。
 - ・球を捜しているときに自分の球を動かした場合
 - ・パッティンググリーン上で偶然に球を動かした場合
 - ・規則に基づいて球をマークする、拾い上げる、リプレースするときに球を動かしてしまった場合

ヨソする日本人プレーヤーが多いと思われるが、ステイブルフオード方式や最大スコア方式でのプレーが広まれば、ゴルフ場運営にも

好影響を生む可能性が高い。ゴルフの普及のために様々なスタイルのプレー方法が考案されており、「最大スコア」も生かしてゴルフ

アを増やしたいところだ。最後に、JGAがまとめた2019年規則の一般のゴルフアーに紹介したものは略）。詳しくはJGAのホームページをご覧ください。

影響する主要点を紹介する（本稿